

**山梨県歯科医師連盟** 今回は2ページです。

## **連盟ニュース** 第46号

□発行  
山梨県歯科医師連盟 甲府市大手1-4-1  
TEL: 055-252-6481 FAX: 055-253-0854  
□発行人 諸角三千夫 HP: http://ydca.jp  
□編集人 鶴田好幸 岩間宣仁  
山梨県歯科医師連盟機関紙

### 第64回定時総会開催される

平成27年3月28日(土)山梨県歯科医師会館3階大会議室に於いて本会臨時社員総会終了後に、山梨県歯科医師連盟第64回定時総会が開催された。

1 開会	副会長	一瀬 明	6 報告	事業報告	理事長	篠原昭夫
2 会長挨拶	会長	諸角三千夫		庶務報告	理事	岩間宣仁
3 来賓挨拶	本会会長	井出公一		会計報告	副理事長	鶴田好幸
4 議長選出	中巨摩支部	保坂裕幸		監査報告	監事	跡部芳彦・内藤敏雄
5 議事録署名委員				日歯連報告	評議員会	諸角三千夫
	笛吹支部	馬場康二	7 その他			
	峡南支部	安居尚美				

議事 第1号議案 平成25年度収入支出決算(案)の承認を求める件 【決】  
第2号議案 平成27年度事業計画(案)の承認を求める件 【決】  
第3号議案 平成27年度収入支出予算(案)の承認を求める件 【決】  
その他

尚、日歯連盟報告に関し、2月4日の新聞等による迂回献金疑惑の様なことが来年行われる選挙でも起こるのかという質問がでた。

質問に対し諸角会長は『「グレーゾーンのことはやめましょう」「誤解を招くようなことはやめるべき」という意見が出たが、次期執行部の考えによるが、私はこのような形は取らないと思っております。』と答えた。『いづれにしても迷惑を被るのは会員であるので、日歯連に対しては厳しい目に対応していただきたい。』との発言があり、諸角会長はこの様な事が続くなら評議員会で発言していきたいと答えた。

続いて、選挙管理委員会から、本連盟役員改選期にあたり、選挙規程第7条に基づき、次期会長、監事の選挙について立候補届出期間を3月6日(金)から13日(金)の午後4時までとし、選挙日を同月28日(土)とする事を、3月3日に告示したところ、会長候補に諸角三千夫先生、監事に跡部芳彦先生、内藤敏雄先生からの届出を受理した。

届出期間中その他の立候補者はなく、本連盟規約第5条の定数どおりのため、選挙規程第10条により無投票にてそれぞれを当選者とした旨の報告があった。報告の後、当選証書の授与が行われた。

### 第1回連盟役員支部長合同会議(理事会)開催される

初夏を想わせる陽気となった4月23日(木)19時15分より、山梨県歯科医師連盟の今年度第1回役員・支部長合同会議が開催された。

冒頭の報告事項では、先の県議選において県歯連盟が推薦した飯島修、臼井成夫、皆川巖、土橋亨の4氏候補は全員当選を果たした事、そして3月20日に行われた日歯連盟評議員会において、高木幹正現日歯連盟会長が本年7月より日歯会長に就任するのに伴い、新日歯連会長に、現東京都歯科医師連盟会長である高橋英登先生が就任する事が決定したと報告された。また、この評議員会において高木日歯連会長より、

- ①過日報道された政治資金に関する記事について、御心配、御迷惑を与えた事へのお詫び。
- ②18ヶ月間、消費税増税が先送りされた事により、財源の手当について、歯科医療界にとって不利な状況にならない様に折衝する旨について。

(2ページ目に続く)

(1 ページ目の続き)

③ 明年の参院選における職域代表候補として、砂川稔先生を決定した。『4月より選対を立ち上げる。選対に対しては新しい体制で臨みしっかりと結果を出していきたい』

との発言がなされたとの報告も併せて行われた。

続いて、協議1においては本年の『デンタルミーティング』(政治家との意見交換会)は6月13日(土)に実施し、参加する議員は、本県選出の宮川典子衆議院議員、堀内詔子衆議院議員、中谷真一衆議院議員、森屋宏参議院議員の4名とする事が決定された。(※5月12日開催の連盟緊急理事会にて延期が決定)

この後、新入会員及び終身会員の承認を経て、明年の参院選における職域代表候補である砂川稔先生の後援会組織設立について協議された

そして、3月の総会において出席者からの質問に対して、理事会で検討する事になっていた事案について協議された。その質問は、

① 27年3月に25年度の収入支出決算書の承認を求めるとは遅いのではないかと。

② 日歯連盟の会費の1人当たり23,000円の20%が県歯連盟に地方政治活動費として給付されているが、それなら最初から20%分を県歯連盟の会費に上乗せしたらどうか。

③ 日歯連盟からの地方政治活動費は会員の人数割りとなっているが、それでは、小規模県は不利ではないかと。

これに対して協議の結果、

① については、前年6月(この場合は26年6月)の評議員会において一度、承認を得た上で3月の総会で協議している。事業計画、予算案に関しては1月の評議員会で承認し、3月の総会で協議承認を得る形をとっているため、これまでどおりとする。

② については、「政治活動費」として、支給されているので、他の用途への流用ができず、資金の透明性が高まり、望ましいと考えられる。

③ については、小規模県では小規模県なりの活動を考えるべきで、人数による活動資金の都道府県への配分はやむを得ないと考えられる。

以上のように理事会にて決定されたので、この場を借りて回答させていただきます。

この後、熱の込もった監事講評があり、長時間に及んだ役員支部長合同会議は閉会した。

#### ◇天空海闊◇

会長 諸角 三千夫

地球について少し考えてみた。今から約45億年5千万年前生まれたばかりの原始太陽系の中で「原始地球」が誕生した。原始星雲の中でダストが固まってできた小さな隕石が次々と集まり直径10キロメートルくらいの微惑星を作り、さらに衝突、合体を繰り返し、雪だるま式に大きくなった。

宇宙は、超銀河団、銀河団、銀河群、銀河-恒星系という階層構造になっている。地球は太陽を中心とした太陽系という恒星系に属している。その太陽系は銀河系(天の川銀河)に属している。銀河系には約1千億個の星があり、アンドロメダ銀河をはじめ50以上の銀河とともに局所銀河群を形成している。地球が太陽を公転する速さは秒速30キロメートル、時速にて1万800キロメートルである。随分と速い乗り物に乗っているもんだ。

さて、現在の地球は、環境問題、核問題、地域紛争などなど多くの問題を抱えている。果たして地球はどの位持ちこたえられるのか心配になってくる。別の星に移住したらどうだろうかという人もいる。太陽の寿命は半分くらいで、残り50億年くらいといわれている。太陽はエネルギーを使い果たして赤色巨星となりだんだん膨張していく。太陽は軽くなり、そのぶん地球を引っ張る重力が弱くなり、地球の軌道は広がるので実際には飲み込まれないかも知れない。しかし、すごい変動が起こる。仮に人類が減りずに存在したとしても、その場合太陽の業火から逃れるため火星くらいまで移住してもあまり意味がない。太陽系から脱出するしかない。しかし、お隣のケンタウルス座のアルファ星域に行くのに光の速さで4年かかる。現在の宇宙船だと秒速10キロメートルちょっと、お隣の星系に移住するためには12万年もかかってしまう。どう考えてもこの地球上にいるしかないのである。

**参考** 4月30日東京地検特捜部は、政治資金規正法違反の疑いで日歯連盟を自宅捜索しております。高木会長、会計担当理事など複数の役員に事情調査が行われた。日歯連盟は『今後捜査当局の早期解明・早期解決に向け全面的に協力しつつ、捜査の推移展開を見守りたい』とコメントを発表した。